

「楽しく学べる国際教育のワークショップ」

山口県JICAデスク 小川 真奈

周防大島町立東和小学校 山本 直

1. 日 時 令和5年8月6日（日）11:00～12:00
2. 場 所 山口県セミナーパーク（山口市）
3. 参加人数 40人（教員（小中学校教員、大学生、スタッフ等）
4. 内 容

(1) 「バーンガ」を体験してみよう



ゲームの説明



実際の体験



熱心な取組



ふり返り

「今回は言葉や文字というツールを使えない状況で、異なるルールのもとゲームをしてもらいました。実は、このゲームの目的は、ルールの違いを文化の違いに例えた“異文化と出会った時”や“異文化の中でのコミュニケーション”を疑似体験していただくことだったので。」「世界の文化は本当に多様で、日本の常識が非常識だったり、価値観が異なったり、そして言語のコミュニケーションがうまくできない中で意思疎通していかなければならないこともあります。海外へ行かなくても、普段自分が“あたりまえ”と思っていることが“あたりまえじゃない”人に出会うことはありますよね。そんな時、戸惑うこともあるし、理解できず、または理解されずに苦しむこともあるかもしれません。」

「今回のゲームで、自分自身や自分以外の人を感じた気持ちを大切にしていれば、異文化間でも相手の気持ちを大切にされたコミュニケーションができるのではないかと思います。」

(2) 考えてみよう「ヨルダンのなんでだろう？」

ワーク1：考えてみよう！ヨルダンの「何でだろう？」

ヨルダンで、JICA 海外協力隊として、小学校で活動している岡崎さんが撮った写真を見せてくれました。写真とその説明を読んで、「どうしてそのような行動をするのか、どうしてそのような状況になっているのか」、グループで話し合しましょう！

①朝食を学校で食べる！



②空き地にパンが並ぶ！



③羊に赤い番号が！

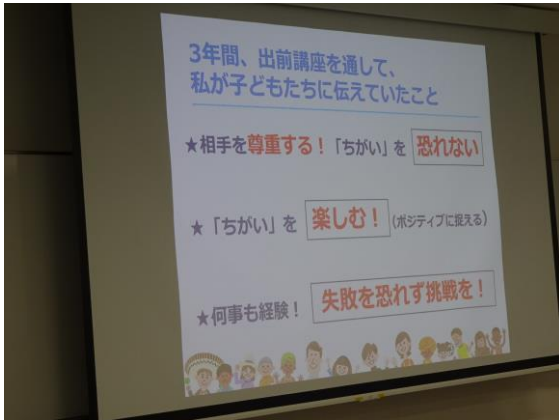


④午後 6 時～8 時は閉店！





感想を全体で共有



【小川さんの話から】

「人とちがっていい」

「失敗しても学びがある」

「チャレンジしてほしい」

「ちがいをおそれず楽しもう」

「ポレポレ」

「自分でゆっくり考えて答えを出してほしい」

5. 参加者の感想

「ちがいを」について考える良いきっかけになりました。人権教育の日の授業で取り組んでみたいです。ありがとうございました。
国際教育に必要な意識について、ゲームや話し合いを通して実感することができました。
ルールの違いという異文化体験をゲームを通してしっかりと感じることもできました。
異文化体験をワークショップで体験できることを改めて実感し、実践したいと思いました。
実際にグループで体験し、異文化理解の難しさに気付いた。
相手に言いたいことを言葉で伝えることができないもどかしさを感じたアクティビティでした。言語の壁があるときはこんな感じなんだと共感できました。
JICAの活動については、知り合いにも応募した人もいて、大変頭が下がります。
国際理解の視野の幅を広げて頂いた。
異文化の中に突然放り出された気持ちが疑似体験できました。勤務先の外国籍の児童たちもこんな気持ちだろうと思いました。

6. その他

- 「ちがいを」について考えるには、今回のような「アクティビティ」が有効な手段であると考えられる。学校生活や日常生活で経験するであろう「ちがいを」に柔軟に対応できる力をもつ児童生徒を育てていきたいと感じた。
- 「多文化共生」に関するアクティビティや実践は数多くある。今後も情報交換を進めながら進めていくことが大切だと感じた。